

香川シームレス株式会社（香川県）

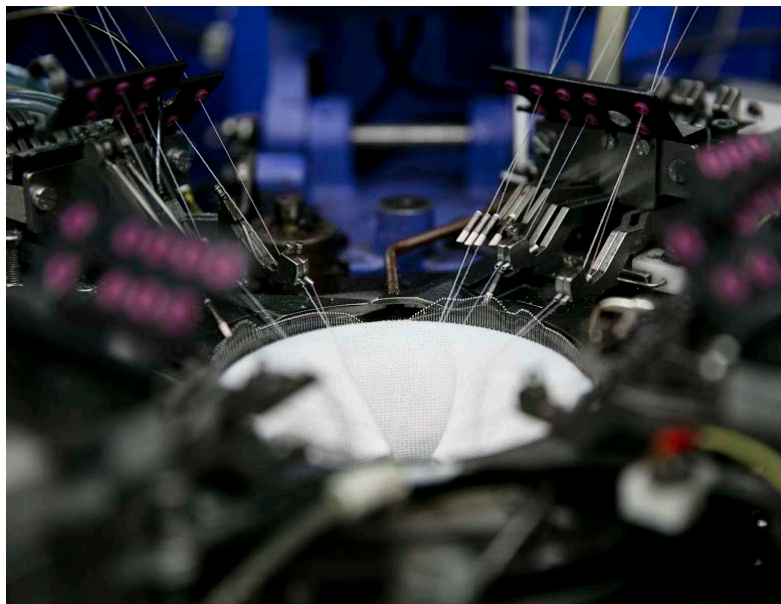
繊維・衣服等卸売業

大手企業に企画を採用された経験を持つ、 糸から編み上げるレッグウェアメーカー

香川シームレス株式会社 代表取締役社長 金地 祐一郎

【事業計画名】

平成24年度補正 靴下編機の高度化



■ 企業情報 ■

【創業年月】 昭和40年12月

【代表者】 金地 祐一郎

【本社所在地】

〒762-8502 香川県丸亀市飯山町川原825-1

【TEL/FAX】 0877-98-2571 / 0877-98-2575

【Webサイト】 <http://www.k-seamless.co.jp/>

【資本金】 6,000万円

【従業員数】 238名

【取扱製品】 パンティーストッキング、タイツ等

企画から包装まで 一貫したレッグウェアの製造を行う

香川シームレスは、ストッキングやタイツなどのレッグウェアの製造・販売を行っております。レッグウェアは白い糸で編んでから、後で染める後染めの手法をとっている製品が多いのが特徴です。後染めも弊社で行っており、8~9割は後染めの手法で製造しています。全体の売上のうち7割がOEM生産、残り3割がいわゆる自社製品と言われる、1から弊社で企画をし、製品まで仕上げて販売をしている製品になります。どちらも原料の糸の状態から、レッグウェアを編み、染色し、包装するところまでを一貫して弊社で行っております。

弊社には、正直「ここが強い」というところはないかもしれません。ただ、「何でもこなせる」という強みはあると思います。100円ショップから百貨店に至るまで、様々な流通経路を持っており、その価格帯に合わせた製品作りをすることができます。また、ただお洒落だったり履きやすかったりするだけでなく、例えばレッグケアができるなどの付加価値をつけることで、差別化を図っているようにしています。

また、自社製品を扱っているところも強みだと考えています。自ら企画・開発をすることによって、OEM生産やODM生産のお話の際に、弊社の方からご提案することも増えてきました。以前、ある企画をご提案したらそのまま大手企業様に採用いただいたこともあります。

OEMやODMを考えているのであれば、かなりお力になれるのではないのでしょうか。

レッグウェア業界は、成熟産業と言われています。各社競争はしつつも、結構似たり寄ったりのものが出来上がってしまっているのです。その中でも、例えば足が細く見えるストッキングですとか、ふくよかな方に非常にマッチした製品ですとか、細かい部分にはなりますが他ではやっていない製品作りをしていきたいです。

国内のトレンドを捉えながら、 インバウンド向けの販売強化も視野に

ものづくり補助金は、非常に簡単に編み方などを調整できる編み機の導入に利用いたしました。以前は製品を新しく作る際には、アナログ式、つまりネジを回したり緩めたりして調節していたのです。導入した編み機はコンピュータ制御になっていまして、データを入力することでアナログ的な手間がなく新しい製品を作ることができるようになったのです。作業の時間が短縮でき、生産効率がかなり上がりました。以前は試作を作る際もアナログ的な作業を経っていたので、かなり効率的になりました。

現在、その機械を利用して特殊な素材を利用したアームカバーの研究・開発を行っています。「クールセンサー」という涼感のある素材を使用することで、快適につけることができるアームカバーです。このような付加価値のある製品は積極的に開発していきたいですね。

現在は海外製の安い製品がどんどん入ってきていますし、今後も流れとしてはますます強くなるのではないかと考えています。安い製品に対抗すべく、日本製ならではのクオリティの高い製品や、付加価値のある製品を作ること、世界に通用するようにしていきたいです。

ここ数年では、インバウンドの流れもあり、海外との取引も非常に増えてきています。品質に関しては海外の方の方が注目して下さることが多いのです。これからは海外のニーズを捉え、グローバルな展開をしていきたいですね。そして海外での評価を足がかりとして、国内でもより多くのお客様にお手に取っていただけるようになれば、と考えています。

国内向けの事業としては、やはりアイデア商品を生み

出して、一定のニーズを掴んでいきたいです。例えば、最近ガウチョパンツなどが流行ったこともあり、女性のパンツルックがトレンドになっています。とすると、パンストのような腰まであるようなストッキングは必要ないんですね。膝丈のストッキングで十分なのですが、なかなかコンビニなどでも売っていません。その動きに応えよう、という動きはここ1年で出てきています。20年前ぐらいには生足ブームがきてどん底まで落ち込んだり、2010年頃からはパンプスを履いた際に使えるカバーソックスが流行ったりと、レッグウェア業界はトレンドに左右される業界です。流行は捉えながら、これからも様々な製品開発を行いつつ、弊社で開発したアイデア商品でニーズを生み出すこともしていけたら、と考えています。



香川シームレス株式会社の工場風景

